

星を見る会

2016年8月9日(火)

でんとうてきたなばた たの
「伝統的七夕を楽しもう」

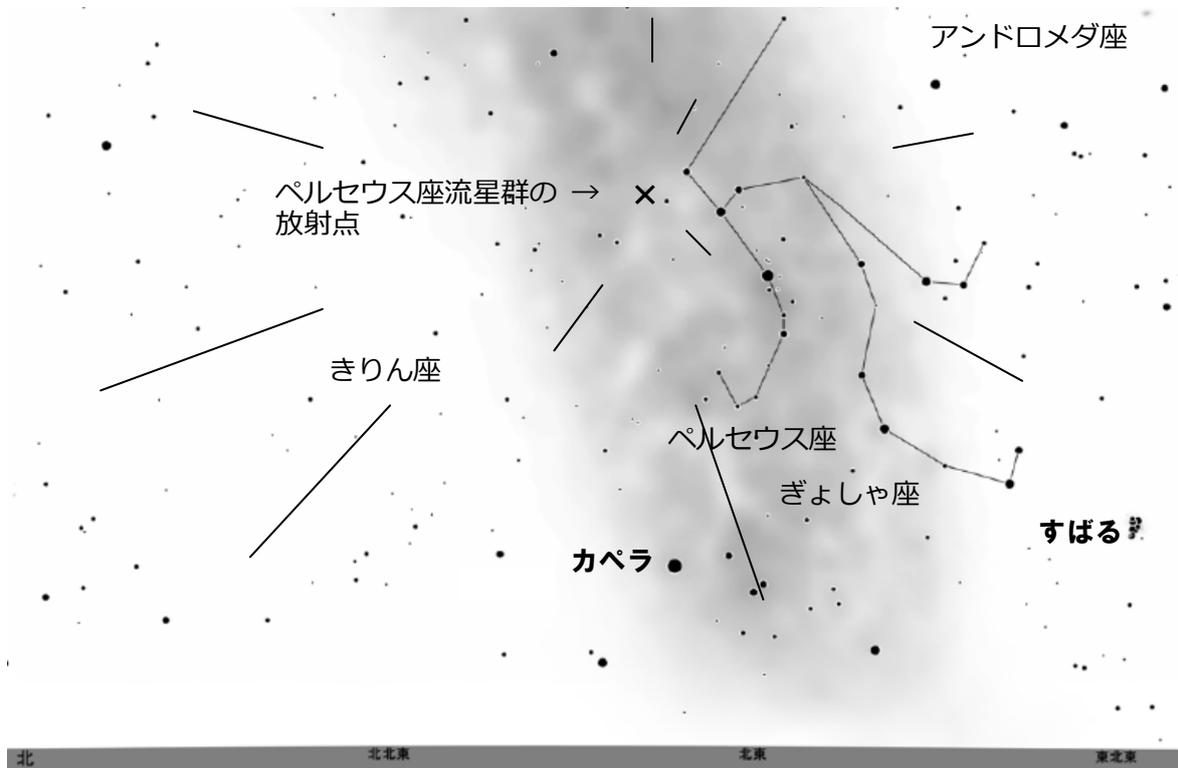
8月に入り、猛烈に暑い日が続いています。夏休みの宿題は順調ですか？

8月中旬は、毎年ペルセウス座流星群がやってきます。今年は8月12日の深夜から13日の明け方に最も活動が活発になります。深夜には月が沈むため、暗い流星まで見ることができるでしょう。自由研究のテーマにしても、面白いかもしれませんね。

流星の観測で一番簡単なのが、流星の数を数える方法です。数十分ごとに時間を区切って数の変化を調べると、流星の一番多かった時間がわかります。集中して空を眺めていると疲れるので、ときどき休憩を取るとよいでしょう。数をメモする紙を忘れずに！同じ時間帯に前後数日間観測すると、流星群の一番多かった日も探ることができます。

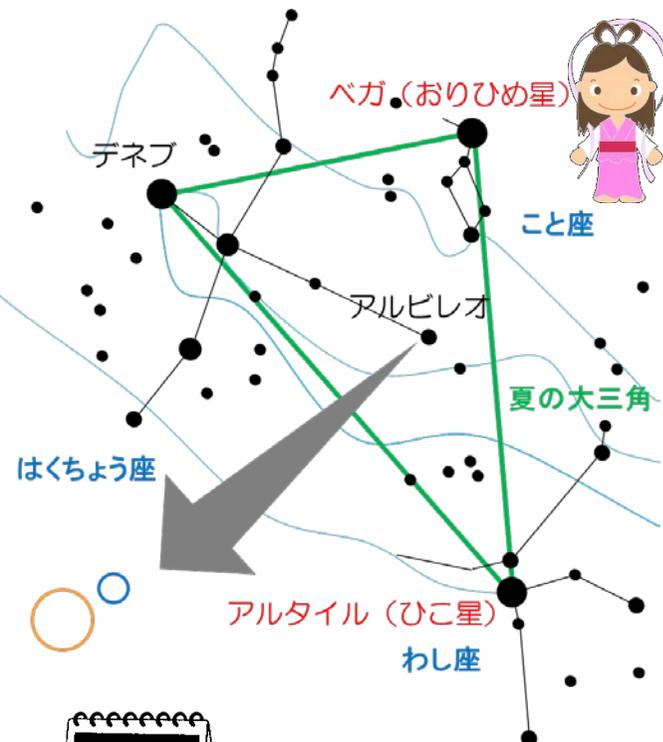
流星の中には、とても明るいものや色がついているもの、流星痕という跡が残るものや音が鳴るものなど、不思議なものがたくさんあるので、変わった流星を見つけたら、流れた時間と一緒に、気づいたことをメモしましょう。

見るときはできるだけ暗く、広く見渡せる場所を選んで、寝っ転がって空全体を眺めましょう。深夜の観測になるので、特にオリンピックで夜更かし気味の方は昼寝をいっぱいして、必ずお家の人と一緒に流星を探してみてください



☆星空の地図：星図の見かた☆

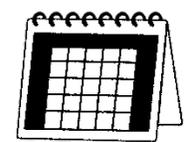
星図は、あかるい星は大きく、くらい星は小さく書いてあります。東をむいて立つときは、図の「東」を下に、西をむいて立つときは「西」を下にしてもちましよう。星図の縁のまるい線が地平線、まるのまん中が頭の真上(天頂)です。



今日は「伝統的七夕」と呼ばれる旧暦の七夕の日です。旧暦は、太陽を基準とする現代の暦とは異なり、月の動きを元に作られました。ですから、伝統的七夕の日は毎年、お月様は半月（月齢7前後）と決まっています。半月は、西の空に沈む頃になると、船のように見えます。この月の船に乗って、織り姫様と彦星様が出会うのです。お月様も、七夕に欠かせない、登場人物の一人なんですよ。伝統的七夕には、毎年明かりを消すライトダウンキャンペーンが行われています。光と上手にお付き合いして、2人が無事に天の川を渡って出会えるように、応援したいですね。

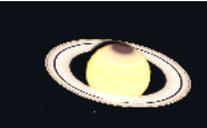


今日は一週間の月・惑星たちがせいぞろい！



木星はそろそろ見納めです。今日はガリレオ衛星がよく見えそうです。

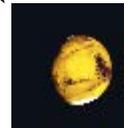
★土星



★アンタレス

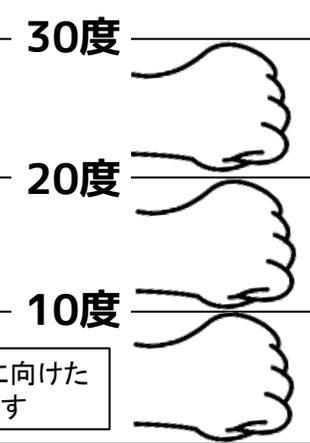
見頃を迎えた大きな輪っかを存分に楽しめます

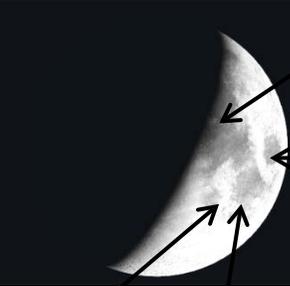
★火星



★アンタレス

かすかに模様が見えるかも？アンタレスとどちらが赤いか、赤さ比べにチャレンジ！





静かの海
危機の海
神酒の海
豊かの海

月齢6.8

★木星

月齢6.8



水星・金星が西の低い空ぎりぎりに見えるかも？

★水星



★金星



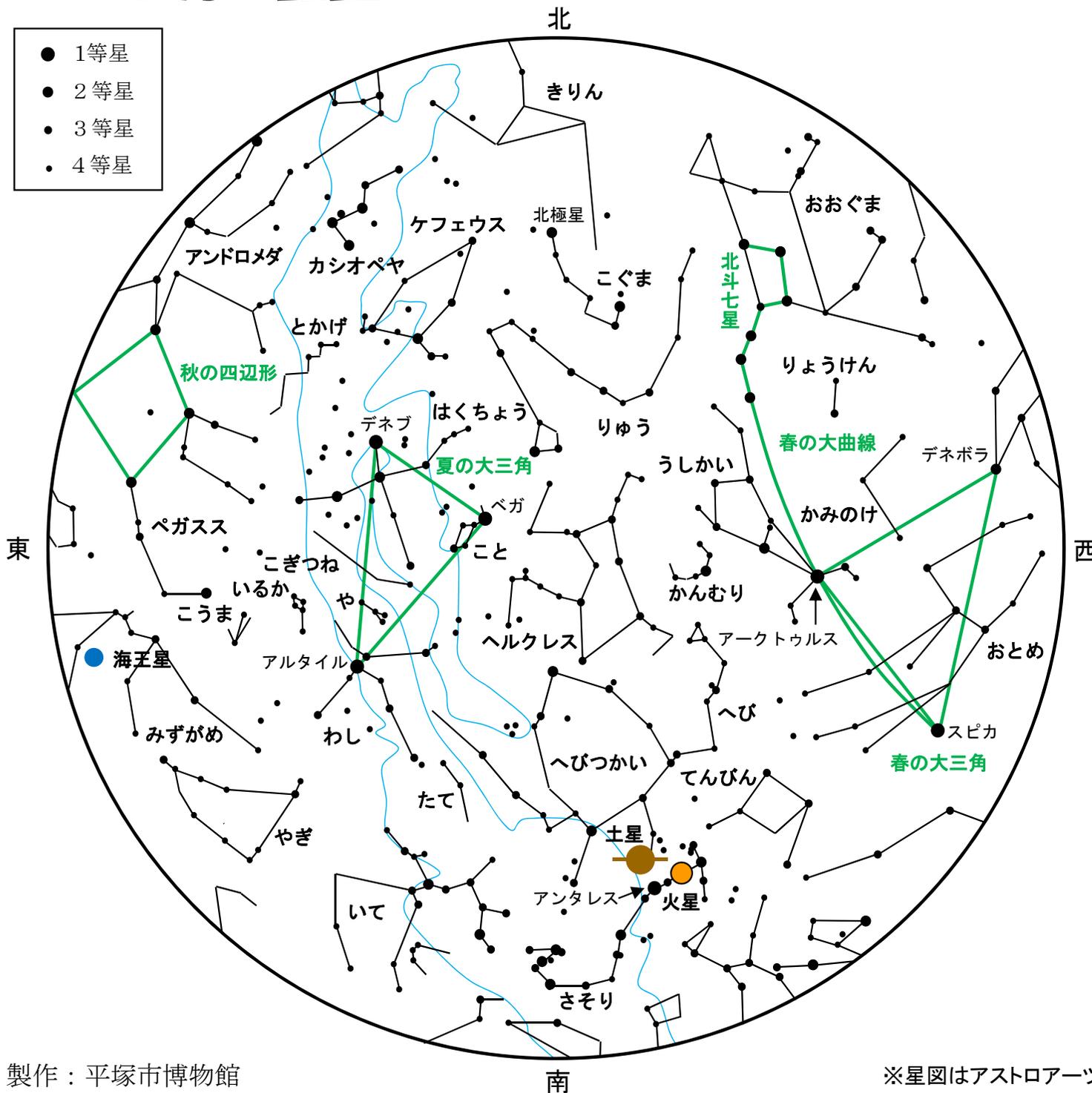
【今夜19時の各惑星の見え方】うでを伸ばしたとき、空に向けたげんこつ一つ分の長さがだいたい10度くらいになります

南 南南西 南西 西南西 西 西北西

☆☆8月の星空☆☆

○●8月の月・惑星●○

- 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星



- 月: ● 新月 → 3日(水)
- 上弦 → 11日(木・祝)
- 満月 → 18日(木)
- 下弦 → 25日(木)

惑星

- 水 星: 上～中旬の夕方、西の空低くに見える。
- 金 星: 夕方の西の空かなり低くに見える。
- 火 星: 夕方、南西～西の空に見える。
- 木 星: 夕方、西の空低くに見える。
- 土 星: 夕方の南西～西の空に見える。
- 観望好機**
- 天王星: ほぼ一晩中見えているが、肉眼ではほぼ見えない。
- 海王星: 一晩中見えるが、肉眼では見えない。

※8月28日、金星と木星が大接近

この星図は、
 8月 1日頃 21時頃
 8月 15日頃 20時頃
 8月 30日頃 19時頃
 の星空を示しています。

惑星は15日20時頃の位置です。